

松山研究室

科学コミュニケーション：人々の知を研究現場へ

人間・社会系部門



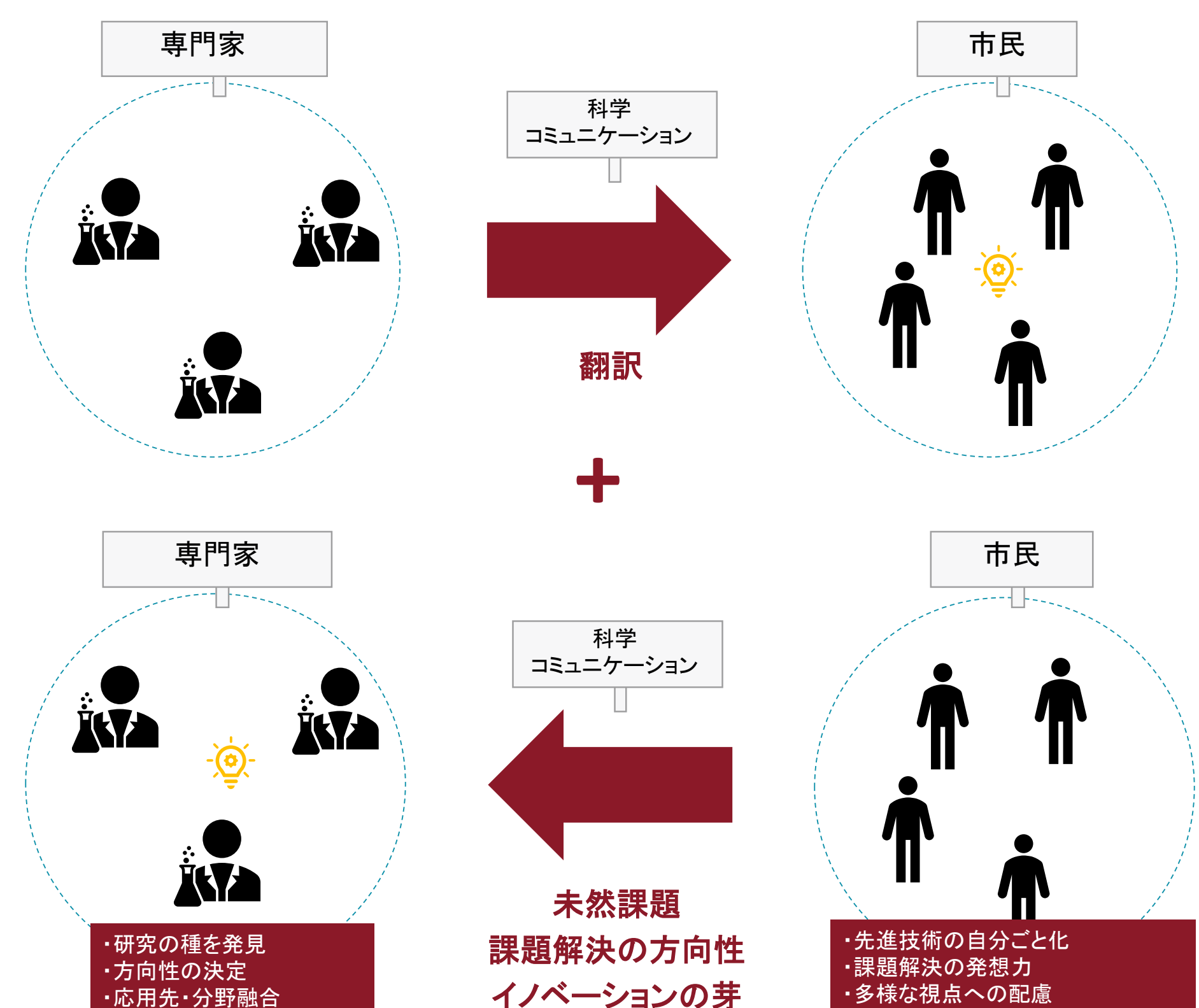
パブリック・エンゲージメント

<http://cardgame.iis.u-tokyo.ac.jp>

ミッション

特定の人々が利益を享受する状況を脱し、「真に社会が望む解決策をもたらす工学」に向けて、工学への市民参加に貢献する。

- 1) 既存の科学コミュニケーション手法を踏まえ、潜在的な課題や多様な立場から検討された課題解決の方向性、技術の新用途、社会実装の際に生じる諸課題（ELSI）など、市民の知を醸成する手法を開発する。
- 2) 科学コミュニケーションの実践を重ね、参加者の回答を分析し、技術開発過程の上流に届ける。

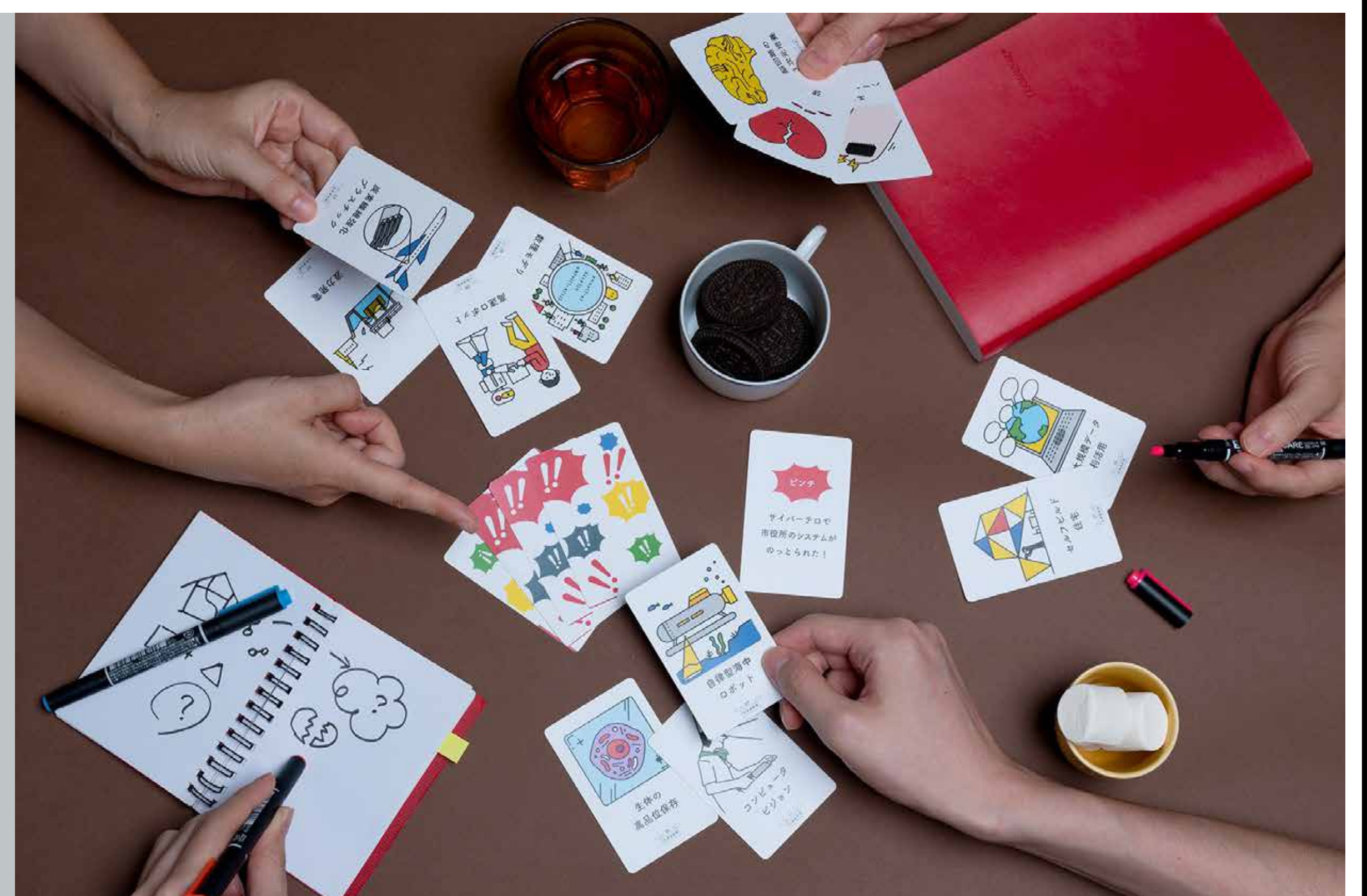


知の醸成・回収

本所で研究・開発中の技術群を組み合わせることで社会課題を解決する方法を、対話をとおして組み立てる科学コミュニケーションツール「ひみつの研究道具箱」を開発している。工学的思考の体験と知の醸成を目的に、教育やまちづくり、学際研究促進等の文脈で実践を重ねている。

ひみつの研究道具箱HP：

<http://cardgame.iis.u-tokyo.ac.jp>



ELSI（倫理的、法的、社会的課題）の整理

新技術が社会実装される際には、技術的課題以外にもさまざまな課題（ELSI）が生じる。事前に人々が対話を重ね、生じる論点を提示し、専門家がそれらを熟慮することが望ましい。

本研究では、問いを重ねて対象の理解を深める「哲学対話」の手法を基に、論点を抽出および整理する手法の開発を進めている。

